

広告



守り・創ろう 美しいまち ANKYO 50th Anniversary

京都市

# 特別対談 SDGsの推進で、守り創ろう美しいまち京都

京都市・亀岡市・大津市、そして地元企業や学生が参加する「京滋SDGsプロジェクト」。プロジェクトメンバーである京都市と企業パートナーの株式会社京都環境保全公社が、持続可能な都市に向け共に取り組むことの重要性について語り合いました。

**松井** 京都環境保全公社の創立50周年おめでとうございます。

**銅谷** ありがとうございます。1971年施行の廃棄物処理法では、それまでひとくくりにされた産業廃棄物と一般廃棄物に区別し、排出事業者責任が明確にされました。それを受けて74年に産業廃棄物処理法が改正され、京都産業界33社の共同出資により設立された京都産業サービスク株式会社（現京都環境保全公社）が、84年に伏見区で中間処理（焼却）の事業を開始しました。徐々に住民の方々のご理解をいただき、おかげさまで半世紀経ってまいりました。京都産業界の下支えをいただいている地域の皆様には感謝の言葉もありません。

**松井** 廃棄物処理は、実は防災の観点からも重要です。今年、元旦に起きた能登半島地震で問題になったのが災害廃棄物です。災害廃棄物は一般廃棄物に該当し本来行政が処理しますが、それだけではなかなか難しいため、産業廃棄物処理の業界もお手伝いしています。京都市と京都府産業資源循環協会は「災害時における応急対策活動に関する協定」を締結しており、今年度は京都市と協定で資機材や人材面での具体的な協力支援体制を整備する協議を進めているところです。

**銅谷** 特に医療系廃棄物や下水汚泥は処理を止められないため、当社ではBCP（事業継続計画）を策定し、有事の際にも事業を中断させることなく、あるいは中断したとしても早期再開することが可能となる体制を構築しています。昨年には「レジリエンス認証」を取得しました。本社は置く伏見環境保全センターでは産業廃棄物の処理事業者15社で構成している千両松地域工協議会に加盟し、災害時には協力して救援物資運送を行う計画です。また、高効率熱回収施設では廃棄物により発電した電力を活用し、電気自動車を通して避難施設への電源供給を行うなど、近隣地域の災害復旧支援体制を進めています。

**松井** 停電時の支えは本心強いと思います。京都市では本年度一次編成予算に京都市家・木造住宅の耐震・防火改修支援、橋りょうの耐震化、上下水道の地震対策などを盛り込みました。さらに災害用備蓄品目を拡充し、断水時にも使える液体ミルク、離乳食、ベビー歯磨きなどを追加していきま。市民の皆様にも少なくとも3日、できれば1週間程度の物資を備蓄していただきますようお願いいたします。

**松井** 環境に関する施策も行政だけでは実現できないため、自ら考えて行動する担い手をたくわ出すことが鍵です。そのために環境教育は重要であり、京都商工会議所などと連携して小学校への出張授業や、高校生向けのフューション講座、マクドナルドや京都芸大と連携し「食の循環」や「生物多様性」をテーマとしたデザインコンテストなどを実施しています。子どもを通じて行われたい人も学び、行動を変容しなればなりません。

**銅谷** 当社の拠点である、伏見区横大路地区や千両松町は伏見ルネッサンスプランの「環境・産業・環境保全センター」とされ、当社伏見環境保全センターは京都市より「環境保全の意欲の増進に係る体験の機会」の認定をいただきました。また、当社は2018年から京都商工会議所主催の「出前授業」に参画し、これまで延べ36校、1740人の子どもたちに環境学習を行いました。さらに、京丹波町の当社最終処分場では南丹保健康所主催で「京都丹波未来つ子環境スクール」を実施し、環境に負荷をかけないごみ処理法などを伝えています。この場所でもともと土砂災害の危険地域ですが、廃棄物を強固な構造設計で埋め立てた後に植林をすることで、100年かけて災害に強く美しい森に戻す事業だと思っています。

**京都市長**

**松井 孝治** (まつい こうじ)

1960年京都市出身。東京大教養学部卒業後、83年通商産業省（現経済産業省）入省。2001年から参議院議員を2期12年務め、内閣官房副長官、参院内閣委員長などを歴任。慶應義塾大総合政策学部教授を経て、24年2月より第27代京都市長。

**銅谷** 近年は、地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業「ローカルSDGs」事業を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくる「地域循環共生圏」の構築が求められています。各製造メーカーはSDGsの12番目の目標「つくる責任、つかう責任」を果たそうと廃棄物を出さない製品や使用エネルギーの極小化に向けた設計を進めています。われわれは焼却炉を使えば温室効果ガスを多量に出しますが、2030年頃には一般廃棄物の焼却炉から出るCO<sub>2</sub>を封じ込める技術が実験段階に入るといいます。今はそういった技術を取り込み、排出ガスを極力減らす仕組みを作れたらと思っています。

**松井** 地球環境を守り、生物の多様性を保全するためには企業の協力が不可欠だと考えています。5月には京都環境保全公社、きよ

**銅谷** 当社も「SDGs」基本方針として、常に高い技術と知識を追求し脱炭素社会及び循環型社会実現へ寄与することを掲げています。環境保全事業を営むわれわれとしては地域循環共生圏の一翼を担い、天然資源やエネルギーの使用削減への取り組みを今以上に加速させていきたいと思っています。環境保全は生物多様性に繋がります。日本でも昨年、2030年までに生物多様性の損失を止め自然を再生しようという「ネイチャーポジティブ宣言」が発表されました。まずはSDGsに向けた取り組みをやり遂げ、われわれ人類を育んでくれる豊かな自然環境を守り、より暮らしやすい地球にするために、京都市をはじめ各自治体と力を合わせて日々の活動に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**松井** 2050年のカーボンニュートラル達成に向け、若者を中心とする「京都脱炭素ライフスタイル推進チーム」2050京創ミーティングが古着の回収・循環にも取り組まれています。染め直しなどにより服にもう一度命を吹き込み、若い感性によるすてきな試みです。また、国の脱炭素先行地域への選定を受け、文化遺産の脱炭素転換、伏見工業高校の跡地を生かした脱炭素住宅街の創出などに取り組んでいます。

**銅谷** 2021年に京都市は「SDGs未来都市」に選定されました。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すSDGs推進の実地の基軸として、世界に環境先進都市としての価値を改めて発信することで、次世代からも選ばれるまちであり続けたい。近隣自治体や企業、大学などとの連携もさらに深め、前へ進んでいきたいと思っています。

**株式会社京都環境保全公社代表取締役社長**

**銅谷 剛** (なべたに つよし)

1959年石川県出身。東京理科大学工学部卒業。82年立石電機（現オムロン）入社。2005年同社人材マネジメント室人材開発部長、07年同社経営資源革新本部企業文化統括センター長を経て、16年京都環境保全公社専務取締役、17年4月より現職。公益社団法人京都市産業資源循環協会理事、一般社団法人持続可能環境センター理事。

## 株式会社京都環境保全公社は本日創立50周年を迎えました。皆様のこれまでのご理解、ご支援、ご愛顧に感謝申し上げます。

京都環境保全公社は、これからも地域における環境保全の「アンカー」であり続けます。50年培った技術・ノウハウを活かし、気候変動や生物多様性の損失など、様々な環境問題の課題解決に取り組んでまいります。

### 共に、京都の産業を支えてきた 株主の皆さま

京都府・京都市  
 (以下、50音順) 株式会社インダ・株式会社イセー・大阪瓦斯株式会社・オムロン株式会社・株式会社カシワジ・株式会社川島織物セルコン・関西電力株式会社・京セラ株式会社・株式会社京都銀行・京都信用金庫・京都中央信用金庫・麒麟麦酒株式会社・株式会社近鉄百貨店・月桂冠株式会社・公成建設株式会社・サンコール株式会社・サントリーホールディングス株式会社・株式会社GS ユアサ・株式会社島津製作所・株式会社SCREEN ホールディングス・積水化学工業株式会社・第一工業製薬株式会社・ダイニック株式会社・大日本印刷株式会社・宝ホールディングス株式会社・ニチコン株式会社・日産車体株式会社・NISSHA 株式会社・日新電機株式会社・日本新薬株式会社・任天堂株式会社・福田金属箔粉工業株式会社・株式会社堀場製作所・三谷伸銅株式会社・三菱自動車工業株式会社・三菱製紙株式会社・三菱ロジスネクスト株式会社・村田機械株式会社・株式会社村田製作所・株式会社森川製作所・山川株式会社・ルーム株式会社・株式会社ワコール

株式会社 京都環境保全公社 創立50周年記念式典

株式会社 京都環境保全公社 創立50周年記念式典

株式会社 京都環境保全公社  
 京都市伏見区横大路千両松町126 Tel.(075) 622-8080